

資料4

鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン 第9回委員会（11月7日）コメント及び反映表

資料:鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン（素案）

番号	ページ		コメント（資料1 第9回委員会検討資料）	反映方針・回答
全体/その他				
1	全体	中村委員長	・説明会を実施する5地域とは、鎌倉市では一般的な分け方なのか。また、時間帯や平日、休日についても満遍なく開催するのか。	・本庁舎がある鎌倉地域と支所が設置してある地域（玉縄、大船、深沢、腰越）の5地域とすることが、一般的です。 ・時間帯は、平日と休日、昼と夜など満遍なく開催する予定です。 ・説明資料は、音声付きの動画をHPで公開する予定です。
2	全体	JR 村上委員	・グリーンインフラなど今の潮流を踏まえた先進的な内容が多く入っているが、これから入ってくる事業者を考えるとインセンティブをセットで考えて提示してほしい。	・来年度以降、民間事業者等に対する緩和策やインセンティブの検討を進めていきます。
3	全体	JR 村上委員	・民間だけがガイドラインのルールを守って実現していくことではないので、プロモーション含めて、官民が協力していく体制が必要である。	・プロモーションの重要性は認識していることから、来年度以降にその方法や協力体制など考えていきます。
鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン（素案）本編について				
1	27p 76-77p	JR 村上委員	・シンボル道路沿いのセットバックのルールと、28pのヒューマンスケール、界隈性等の用語が、噛み合っていないように見える。	・シンボル道路沿いのセットバックのルールはオープンスペースの整備方針を示し、28pのヒューマンスケールのルールは街区内の回遊動線を意識した賑わいに関する実現方針を示しています。
2	27p等	木村委員	・緑の小道、奥まった回遊動線沿いに小さいお店が並ぶ空間などは、鎌倉の重要な特徴である。そのような空間、内容があまり深掘されてなく、イメージ共有がされていないので、より発展させてほしい。	・28-29p等を含めウォークアブルの考え方にシンボル道路以外の回遊動線などあるが、より深めて鎌倉らしさ出していきます。 ・27pに界隈性のある歩行空間を共有するため、写真を追加しました。
3	38-39p 94-95p	福岡副委員長	・グリーンインフラに関する内容が記載されていて、気候対応デザインのシミュレーションは、提示したものの、地区全体及び街区毎の目標値は具体的に示されていないため、今後のやり方が気になる。	・今後、環境性能に関する具体的な数値基準を設ける際の根拠として利用していきます。 ・来年度以降、ガイドラインの運用体制について検討を進めます。
4	122p	UR 清原委員	・小街区は、大街区と同じくセットバックやオープンスペースを確保することが敷地の大きさから難しい場合が生じると考えられる。適用上、何らかの緩和策などがあるのか。	・街区の大きさ毎に対応困難な内容があることは理解しているため、まちづくりガイドラインでは一部の街区に対して最低限の基準を設け、その他の街区はその建築計画時に合わせ協議を進めていくことを考えています。 ・「成長型ガイドライン」の形をとることで、今後協議しながら実現していきます。
5	122p	中村委員長	・各街区のルールには、細かい数字が書かれているが、今後運用していく中で、しっかり運用できるよう、体制含めて検討が必要だと思う。	・来年度以降、ガイドラインの運用体制について検討を進めます。
6	128- 129p	福岡副委員長	・ガイドラインの運用の中で、事業段階でガイドラインに基づいて各街区の計画が進んでいるのかをチェックしたり、議論したりする機会が設けられているか。	・来年度以降、（仮称）深沢地区まちづくり委員会で、議論する機会を設けることを検討します。
7	128- 129p	JR 村上委員	・ガイドラインの運用プロセスに「審議」という言葉が書かれているが、具体的にどのような審議なのか知りたい。 ・後半に書かれているエリマネ組織とは、どのような考えなのか。	・（仮称）深沢地区まちづくり委員会で、「協議」していくことを意図しているため、128p表現を「審議」から「協議、審査等」「調整」へと修正しました。 ・エリマネジメント組織は、来年度以降、具体的な検討を進めます。